

Economic Indicators

発表日: 2023年4月7日(金)

景気動向指数(2023年2月)

～大幅上昇も反動の面が大きい。3月分で基調判断下方修正の可能性も～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

一致指数は反発も、反動の域を出ず

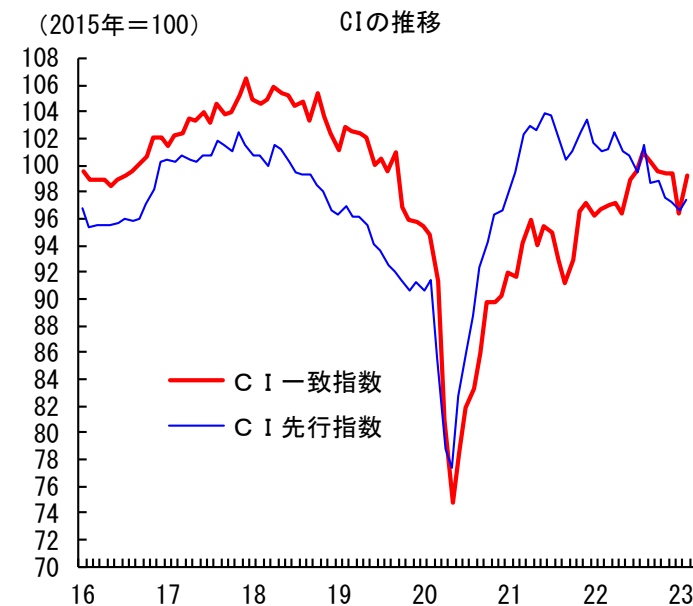
内閣府から公表された2023年2月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+2.8ポイントと大幅に上昇した。鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数など、生産・出荷関連系列で1月の落ち込みからの反発がみられたことが押し上げ要因となっている。

C I一致指数は単月では大幅に上昇したものの、1月分が中華圏の春節時期のズレによって前月差▲3.0ポイントと大幅に低下していたことの反動の面が大きい。1-2月平均の値は10-12月期を▲1.6ポイント下回っており、均してみれば足踏み感が強まっている状況に変化はみられない。グローバルな製造業循環が依然下向きであることや海外経済の減速により、この先も輸出は下押し圧力を受けやすいことを考えると、先行きについてもC I一致指数は下振れ含みとみていた方が良さだろう。

3月に「下方への局面変化」に下方修正の可能性も

2月のC I一致指数の基調判断は、3ヶ月連続で「足踏み」となった。内閣府による「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。

なお、3月分が前月差▲0.6ポイント以上のマイナス幅となれば、「下方への局面変化」への基調判断下方修正の基準を満たすことになる(基準は「7か月後方移動平均(前月差)の符号がマイナスに変化し、マイナス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上」かつ「当月の前月差の符号がマイナス」)。前月差▲0.6ポイントというのは微妙なラインではあるが、2月が大幅に上昇しているだけに、3月分では「反動の反動」が出やすい面もある。「下方への局面変化」への下方修正基準を満たす可能性は十分あるだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

